

英語を身につけ グローバルな人間に!

しんたく けんたろう
新宅 健太郎さん

12月16日・17日に埼玉県で開催された、第12回全国高校生英語ディベート大会に出場を果たした、スウェーデンヒルズ在住の高校2年生 新宅健太郎さんに「英語ディベート大会」とこれからの目標についてお話を伺いました。



英語は夢の実現のために

僕が小さいころから、家では外国人のホームステイを何度も受け入れていたり、母親が英語の先生として、地域の子どもたちが世界に飛び立つための活動をしていたことから、英語に触れる機会が多くありました。野球がとても好きで、西当別小・西当別中在校時は野球一筋でしたが、中学生生活を送る中で、教育者・政治のリーダー・映画監督などさまざまな夢を抱くようになりました。その夢を実現させるために考えた結果、日本だけでなく海外でいろいろな文化や考え方を学ぶ必要があると思い、英語に集中できる高校に進学しました。高校では英語部に所属し、現在は学校での勉強、部活動のほか英語教室にも通い、英語漬けの日々を送っています。

英語ディベート大会とは

英語部の活動では、ディベート、スピーチなどさまざまな大会がありますが、僕はディベート大会に出ることを選択し、チームの一員と

して活動してきました。英語ディベート大会は、1つのテーマに対して、4人1チームで肯定・否定の意見に分かれて論戦します。4人には「自チームの意見を述べる」「相手チームの意見に対する反論をする」「相手チームの反論を受け自チームの意見を再整理して述べる」「双方の意見を比較し自チームの意見の優位性を述べる」というそれぞれの役割があります。相手チームの反論に負けず、自チームの意見をしっかりと伝えられたかどうかをジャッジマン（審判）が判断し勝敗が決定します。

大会の準備で英語力の強化

肯定・否定どちらの立場で意見をすることは、試合が始まる寸前までわからないため、どちらの準備も必要です。昨年の大会では、「That Japan should significantly relax its immigration policy.」（日本は、移民政策を大幅に緩和すべきである。「是か非か。」）というテーマでした。全道大会への準備で英語力をつけ、その結果全国大会の出場を勝ち取ることができました。全国大会では、さまざまなバック

グラウンドを持った高校生が集い、ディベートを通して、お互いに高め合うだけでなく、友達をたくさん作ることもできました。また、移民についての意見を深めることができ、大会を通して自分の視野がとても広がりました。

目標と家族・仲間等への感謝

夢の実現のため、進学先と決めたアメリカトップクラスの大学で幅広い分野の学問を学び、世界で活躍できる人材になるために、更なる語学力の向上が必要だと思っています。そのためには、国際基準の英語能力試験 TOEFL やアメリカの大学能力評価試験 SAT で 90% 以上の点数を取ることを一番の目標としています。今回のディベート大会までにお世話になった、英語部員、チームメート、顧問の先生方、そして家族には表しきれないほど感謝しています。

全道大会では、高い英語力を評価され個人賞のベストディベーター賞を受賞されている健太郎さん。夢に向かって頑張ってください。（3月13日取材）